

# 全学教育シンポジウム「京都大学の教育におけるニューノーマルを展望する」アンケート報告

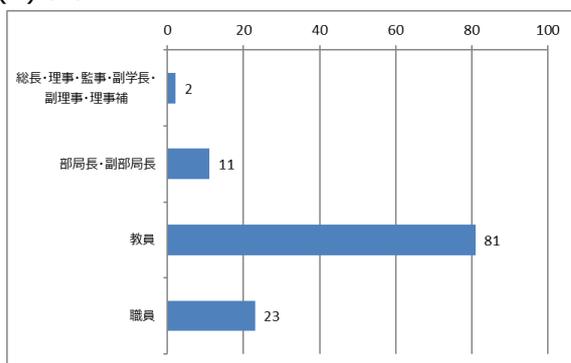
2020/10/14

高等教育研究開発推進センター

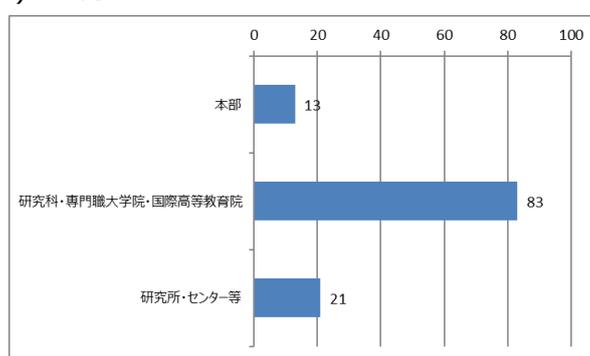
- 日時：2020年9月11日（金）10:00~17:00@Zoom webinar
- 参加者：349名（スタッフ含む）（2019年：232名）
- 事後アンケート回答者：117名（2019年：67名）

## 1. ご自身のことについて

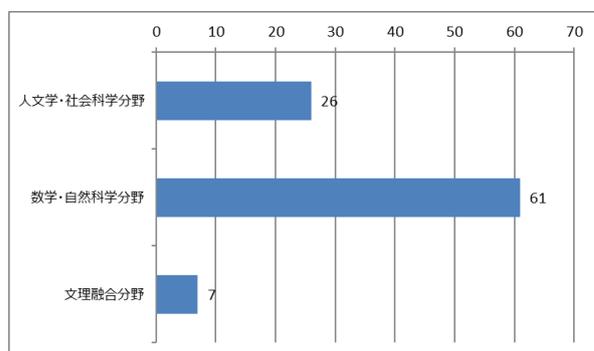
### (1) 職位



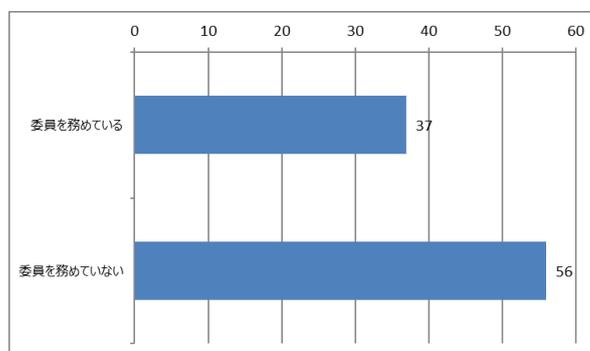
### (2) 所属



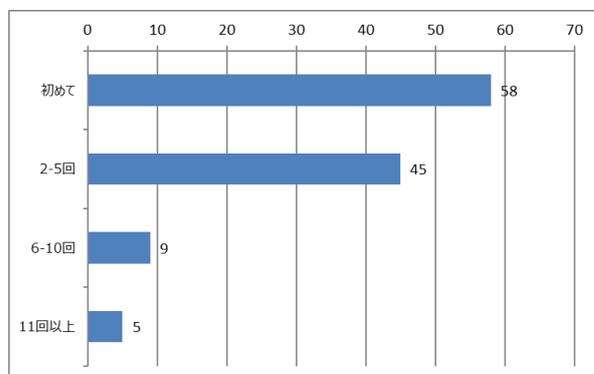
### (3) 専門分野（教員のみ）



### (4) 全学・所属部局の教育関係委員会の担当(教員のみ)

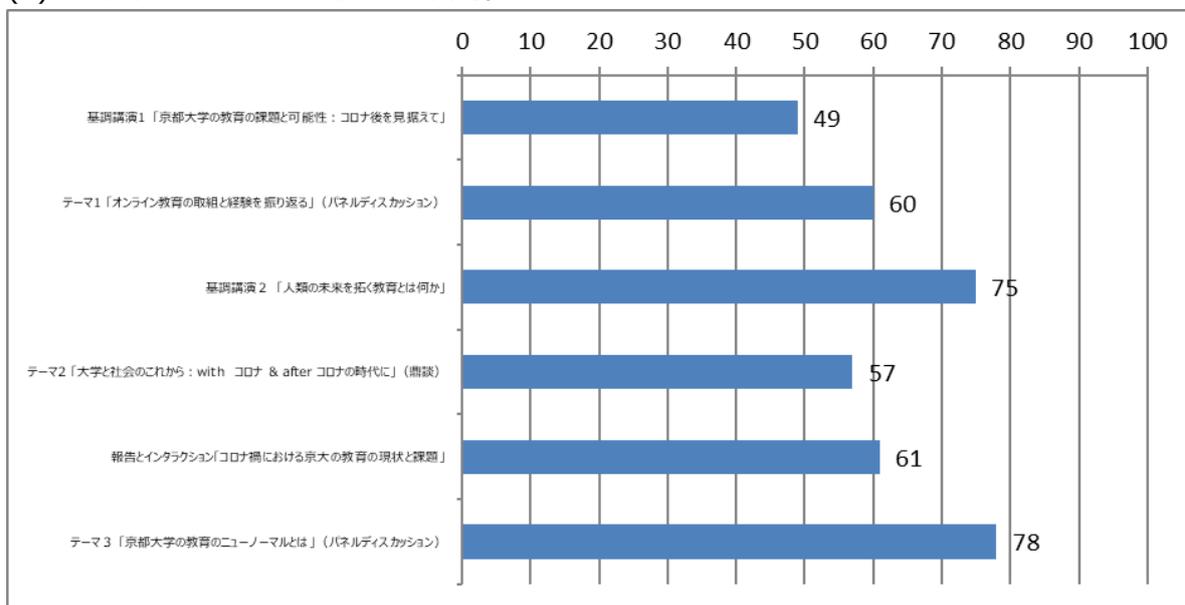


### (5) シンポジウムへの参加回数



## 2. 今回のシンポジウムについて

### (1) 興味深かったプログラム（複数回答可）



### (2) 興味深かった内容

#### 基調講演 1「京都大学の教育の課題と可能性：コロナ後を見据えて」

- ・京都大学のオンライン教育の現状 Remo
- ・京都大学の取り組んでいる様々な教育への取り組み
- ・オンライン授業満足度が高く、来年以降も教室の改修も視野に入れて続ける気であること
- ・Student flow の図が興味深かった。修士・博士課程修了者の生涯年収を示すのが大学院進学への一つの動機づけにはなると思います。
- ・北野先生の教育に対する考え方が表現されていた
- ・Remo、使ってみたくて思いました。
- ・少し平易というか、想像できる話の感じがしました。
- ・Zoom 授業でも観光バス効果があるということ
- ・現在の京都大学の教育の問題や今後の展開をわかりやすく説明していただき興味深かった。また、コロナ禍における取組の概要・評価や問題点が認識できた。オンライン教育が、学生にも教員にも満足度が高いという点は非常に良いと思いました。
- ・オンライン授業に肯定的なのが不思議でした
- ・高大、大大、大社の接続の重要性がよく理解できました。
- ・オンライン講義について、アンケート調査から学生も教員も満足度が高い。
- ・対面とオンラインというどちらかということではなく、新たな「モデル」を構築することに気づかされた。
- ・北野理事の最後の講演。これまでの総括の意味合いがあった。

#### テーマ 1「オンライン教育の取組と経験を振り返る」(パネルディスカッション)

- ・オンデマンド・日本語表示・自動翻訳
- ・自分の前期の授業を振り返るよききっかけになりました。
- ・PandA による試験
- ・PandA の裏事情
- ・オンライン授業の環境整備や支援に当たっていただいた方々のご尽力に感謝します。
- ・かなり以前からの取り組みが結実したのが前期だったのかと思いました。
- ・ハイブリッド型講義のノウハウの資料があることは(後期に向けて)ありがたい。
- ・全体的にオンライン授業が否定的な評価でなかった点
- ・特に、工学研究科で実施されたオンライン試験の情報がありがたかったです。
- ・前半長過ぎ、パネルディスカッションに時間を割いてほしかったです。
- ・工学研究科によるオンライン試験の対策
- ・PandA のシステム構築や zoom との連携について、以前から取り組まれていたことで、スムーズにオンライン教育が実施できたのだとわかった。
- ・また、大嶋先生のお話にあった自動音声認識・英語翻訳授業支援システムは完成すれば非常に有用だと思いますので、是非使用してみたいと考えます。他に、私もオンライン試験の導入を考えていましたが、カンニングの問題で断念しましたので、工学研究科での実施方法や海外での実施方法についても非常に興味を持ちました。
- ・パンダの活用率など、具体的な数字が示されていて興味深かった
- ・オンライン教育の取り組みについて、古くから取り組まれていることが分かった。

- ・オンライン教育には賛否両論あるが、「部局を超えた discussion を可能にした」というコメントになるほどなと思った。部局間の連携が、これからは続くと思う。
- ・役に立つ知識も得られたが、技術面で熱心な人の話を聞くと、取り残されてしまいそうで、教育の本質的なことを忘れそうになる。
- ・司会がなぜ長々と喋るのか。パネルディスカッションでの質問を簡潔に述べて、パネリストにマイクを回すのが仕事ではないのか。
- ・情報環境機構と高等教育研究開発推進センターでは、これまでの活動の積み重ねが、今回の非常時の緊急対応につながっていること。工学研究科ではオンライン試験対応のための熟議が重ねられて実施されたこと、教育学研究科ではコロナ禍に対して独自の取り組みを続けられてきたこと。コロナ禍でも留学生が 19 人も来日していたこと。
- ・前期の具体事例を知り、後期にどう生かすかを考える貴重な材料となった。
- ・それぞれの部局の努力の中身がよく見えた。
- ・オンライン授業の使用頻度や環境の裏側を見れたことが興味深かった。

## 基調講演 2 「人類の未来を拓く教育とは何か」

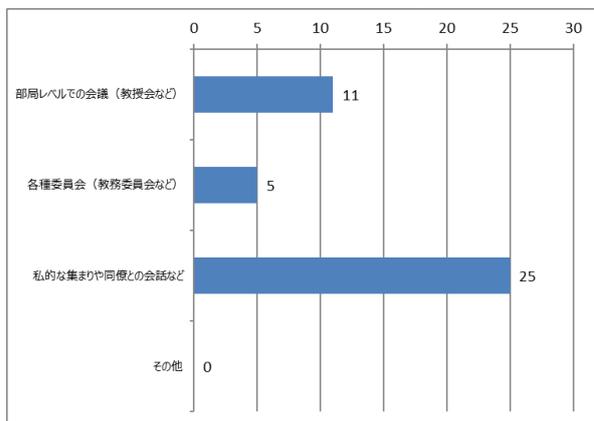
- ・これほど素晴らしい総長のもとで研究・教育ができていたのだということ、改めて認識した。
- ・スケールの大きな話で面白かった。
- ・京都大学が行う教育がどうあるのが良いか
- ・京大総長はこれぐらいスケールの大きなビジョンを語るのがよいと思います。
- ・「自己肯定感、自己実現感、社会とのつながり」が大事であることは多くの大学院生にも伝えたい。
- ・ゴリア研究から人間社会における共感性や授業がどうあるかに対するの論理展開が素晴らしく、感動しました。
- ・教育における「効率性」の意味
- ・現代人が現実でなくフィクションに生きているという点、フィクションの研究者としての問題意識に大いに重なるところがあり、それを人類史的視野から考える新鮮な契機となった。
- ・これだけ大きな視点から教育の意味についてうかがえて面白かったです。
- ・700 万年前からの話から始まった点は驚き
- ・共感性の重要性、大学は公共財というご主張に、共感しました。
- ・面白く、あるものを感じ、あるものは考えさせられるお話でした。
- ・類人猿の教育事情が興味深い
- ・教育がほぼ人間のみに見られる行動で、生産性・効率性という観点で評価できない。
- ・デジタル化社会が、曖昧なものを曖昧なままにしておくことができない社会ということは、非常に納得できるところがあり、非常に興味深く聞かせていただきました。共感性をつけるための講義をどのようにするのが難しく感じました。
- ・おもしろい内容でした
- ・感性、知性、理性、さらに悟性が望まれる
- ・情報化により捨象されるものの議論は納得しました。
- ・非常に興味深かった。人間にしかできない「教育」、京大にしかできない「教育」をどう紡いでいくか、その一端をしっかりとってきたい。
- ・非常に啓発的・刺激的な内容だった。
- ・現状の状況下における今後の大学教育について。
- ・教員、学生が相互に刺激し合うのが教育だという言葉に刺激を受けた。
- ・山極総長ならではのスケールの大きな話だった。

## テーマ 2 「大学と社会のこれから：with コロナ & after コロナの時代に」(鼎談)

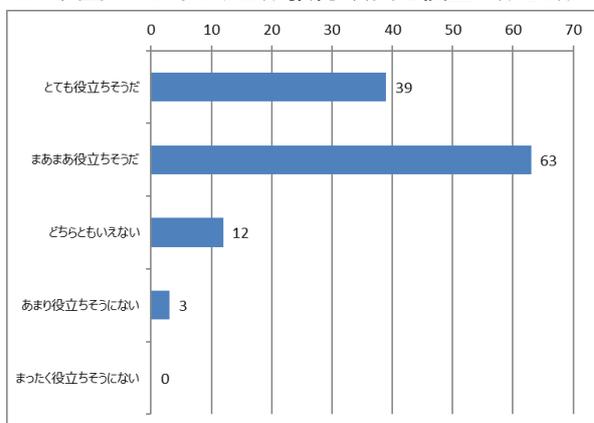
- ・京大の自由は自遊、教員との出会い、居着く場としてのラボ。単にコロナでどうするかという話ではなく、京大のあるべき姿を再認識する機会にもなった。
- ・出口教授の話には何となく感じていた不透明感が解消される思いがした。
- ・新総長のお考えの一端が何えてよかったです。
- ・三人の先生方のお考えに非常に共感出来ました
- ・湊理事の対面とオンラインの 2 軸は正しくないのではないかという意見には全く同感である。
- ・「自遊」という概念はいいなと思いました。具体的にどう実現するのかは謎ですが（現状明らかに逆行しているような）
- ・「すきま」は研究にも大切ですね。
- ・湊先生の学生時代のお話が印象的でした、昔ながらの自由な出入りの雰囲気は今もあるといいなと思いました。
- ・教育における「効率性」の意味
- ・稲垣先生のお話のおかげで、自分の考えを整理することができた。
- ・対面の重要性を認めるお話、安堵を覚えました
- ・結構ためになるというか、改めて意識すべきことを考えさせられるお話でした。
- ・出口先生の効率化の一元支配からの脱却と稲垣先生の隙間の重要性
- ・「自遊の場」、脱効率化一元論のニューノーマル、「世界京大化計画」等、非常に興味深いと感じました。京都大学の文化が維持できるような手法は、個人的には非常に良いと感じます。研究室に居つく学生が残念ながら最近では少ないと感じますので、オンライン vs 対面ということだけではなく、学生をそうなるようにどう導くかや、様々なセキュリティを緩和する必要もあるかと存じます
- ・わけわからん。ねむたかった。
- ・自由と自遊の融合
- ・哲学、教育、医学と多面的な議論が有意義でした。
- ・ポストノーマルサイエンスの議論や自遊の議論には興味を持ちました。
- ・いくつか出てきたキーワードは大事だと思いますが、少し解説のほしいところもありました
- ・脱効率化の必要性、教育の本質とは何かが見えてきたコロナ禍。京大からの発信をしていけるように。
- ・出口氏、稲垣氏の話は、役に立つヒントが含まれていた。次期総長の話は内容が乏しく、残念。
- ・対面とオンラインのハイブリッドを実施するにしても最適化を考える必要がある
- ・「対面」での講義の意味が偶然の出会いやその後につながるきっかけを生み出すことを改めて認識した。「対面」と「オンライン」とでどういった形

<p>式が最適かはわからない、やってみないとわからないに共感した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鼎談を期待していたが、3人の登壇者がそれぞれにミニ講演をやって終わりになってしまったのは残念だった。</li> <li>・対面に対するお三方の考え方を、体系的にかつ説明可能な形で聴講できたのが良かった。</li> </ul>
<p><b>報告とインタラクティブ「コロナ禍における京大の教育の現状と課題」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Mentimeter はおもしろいツールだと思いました。</li> <li>・インタラクティブによるアンケート</li> <li>・データから、春学期のオンライン講義が本当に「良かった」のか、にわか作り Zoom 講義で良いのか？疑問です</li> <li>・学生自身は講義に関してはオンラインでよいと考えている割合が多いことがはっきりした。</li> <li>・他の部局の教員の考えを知ることができた。</li> <li>・待機タイムが頻繁にあり、時間の割に得られた情報は少ない印象だった。</li> <li>・オンデマンド型が意外と少なかったこと。オンラインの評価が二極化しているのは興味深かったです。</li> <li>・オンデマンド(動画)が双方向よりも高い評価を受けていることに少しショックを受けました。</li> <li>・実際の教員・学生の実感がわかり興味深かった。</li> <li>・授業形式と効果の関係に関するデータ</li> <li>・知ってはいたが、新入生と在学生の評価に大きな違いがあることを再認識した</li> <li>・全体的な状況がわかり、参考になりました。</li> <li>・アンケート結果がためになりました。</li> <li>・動画教材で講義を行ったが、学習効果の実感において、学生がオンデマンド型(動画教材)あるいは混合型(同時双方向+オンデマンド)でよりよく学べたということであったので、作成して良かったと感じた。1年生は他の学年に比べ、不安や身体的・メンタル的な不調がやすいということがわかり参考になった。</li> <li>・オンライン講義に本格的に取り組んだのが初めてだったこともあり、資料を丁寧に作りすぎた感がありました。報告の中でも不完全な講義の重要性とお話がありましたが、もっと「行間」を開けて、学生に考えさせるよう工夫すべきと再認識しました。</li> <li>・参加者の意見をリアルタイムで見ることができたこと</li> <li>・データを示すだけで…。もう少し考察を。しかし、mentimeter で、参加者の志向が可視化できるのは、とても興味深かった。</li> <li>・現状がわかりやすく総括されていたと思う。</li> <li>・学生も教員も、オンライン講義に肯定的な側面もある。教員は講義準備に時間がかかっている。ppt など電子資料を使って講義してきた教員はそれほど準備に膨大な時間がかかっている。学生も教員もライブ講義とオンデマンドの組み合わせたものの満足度が高まっている(学生は授業を受ける、教員は学生の学習度合い)。学生は、現状(オンライン講義で授業を受けること・自宅にいて大学に出ないこと)下で、体調を崩したり、辛さを感じている。講義以外の点で学生への対応も考慮する必要あり</li> <li>・多くの教員が短期間にオンライン講義に対応したことを知った。こうした環境を整えてくださった関連の方々のご尽力をありがたく思った。</li> <li>・教員調査の結果がとてもコンパクトにわかりやすくまとめられていた。</li> <li>・mentimeter を使った参加型だったので良い気分転換になった。</li> </ul>
<p><b>テーマ3 「京都大学の教育のニューノーマルとは」(パネルディスカッション)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喜多先生のお話を全部聞きたかったです。にわか作りオンライン講義で「良かった」んですか？本当に。</li> <li>・ベストミックスは学系や、学生の多様性、人数などの条件で異なるため、全学規模で討論することには無理があるのではないかと</li> <li>・「オンラインと対面はそれぞれ特性がある」というのは当然だと思いました。</li> <li>・ベストミックスの模索は必要。国際競争とともに教養の数学・物理では「よびのり」などの YouTube との競争もあり。</li> <li>・総長の「教育の手段と本質を混同してはいけない」という言葉</li> <li>・学部での個人指導を進めるといふ総長の意見に同感。</li> <li>・「京都大学の教育」の未来について、各先生方がそれぞれの視点をお持ちであること</li> <li>・「教育＝サービス」と捉える発想は教育を破壊するという山極先生のお話身にしみました。学生に挑戦する授業、頑張りたいと思いました</li> <li>・非常に面白く拝聴させていただきました。</li> <li>・山極先生の教育はサービスではない</li> <li>・完全習得学習について興味を持ちました。とても面白い手法であると思います。また、教育がサービスだという考えに違和感があることについて賛成をします。目先の利益、単位の取得のみを重視する学生が増えているように感じており、問題が多いと思います。学部から個人指導をするということは非常に良いと感じました</li> <li>・パネリストがおっしゃるとおりコロナに対する腹決めは大切です。新型コロナの医学、医療や、経済、社会の影響や回し方などの研究について、京大としてどの程度力を入れますか？京大からまとめて発信ができればと思います。</li> <li>・京都大学の教育のあり方について興味深い意見が聞けて有意義でした。</li> <li>・最後の、情報発信を強く行っていくべきとの議論や京大らしさの議論には共感します。</li> <li>・末端の助教ですが、理事の先生方がどのように考えていらっしゃるか「肌」で感じることができて、非常に勉強になりましたし、安心もしました。こういったシンポジウム自体も、学生に対する教育の題材になるのではないかと思います</li> <li>・特に山極総長のお言葉は、核心についていて興味深かった。</li> <li>・大学のあり方、京大のほこり、京大の価値…考えさせられるディスカッションでした。</li> <li>・流れに巻き込まれず、「京大らしさとは何か」ということを考える大学であることに、ほっとした。</li> <li>・全体的な動きや文科省の要請のなかで、これまでの京大らしい教育方針を熟慮して、独自の教育研究活動を進めていくべき</li> <li>・「対面」、「オンライン」は手段であり、目的によっていろいろあること、大事なのは教育の目的であり、それによって様々な手段があること、京都大学の教育とは何なのかを改めて考えさせる、とてもありがたい機会であった。</li> <li>・京大で教えるというこの心構え、理念を持つことの大切さを改めて考えさせられた。</li> <li>・Zoom のディスカッション機能を使った方が良いと思います。</li> <li>・現執行部の最後の花道を飾るにふさわしく、それぞれの登壇者から多様な論点が出された。それをどう引き取って今後の京大の教育を創っていくか、自分の課題として受けとめたい。</li> <li>・京大で教えるというこの心構え、理念を持つことの大切さを改めて考えさせられた。</li> </ul>

### 3. 今回のシンポジウムについて、所属する部局で報告・議論する機会（複数回答可）



### 4. 今回のシンポジウムが教育改善に役立つかどうか



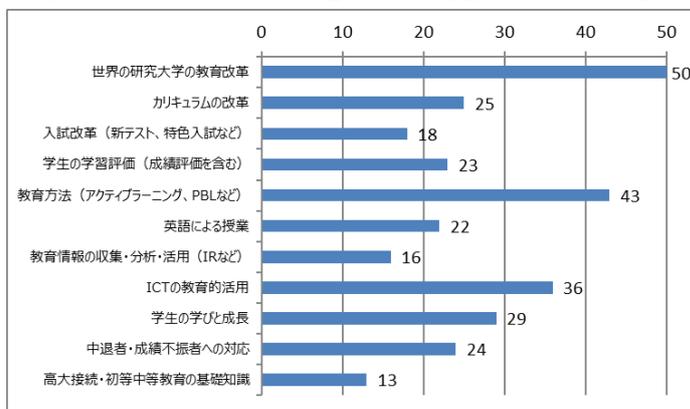
## 5. ご自身の授業や所属部局における教育的取り組みに関して、現在抱えている課題や今後に向けてのアイデアなど

- ・オンデマンド授業の一部を YouTube の限定配信で一般市民にも公開した。開かれた大学のあり方を問う上で、活用できていると思っている。
- ・対面授業や対面型の課外活動の再開が大きな課題だと思います
- ・ハイブリッド講義のための設備
- ・何%の学生が講義を理解するのが望ましいのか
- ・実習、手技や態度の学習が出来ていない、1 回生へのケアが全く出来ていない。VR 教材を作成して少しでも何とかしたいと思っています。
- ・オンライン試験のカンニングをいかに防止するか。カンニングの物証がない場合にどうすればよいか。
- ・対面とオンラインの併用
- ・教員が対面で学生とコンタクトする時間の確保。今年度は講義した学生の顔が分からず、挨拶されても誰かわからない場合が増えている。
- ・Online の方が、画面共有機能などを用いて資料の提供は行いやすいのですが、実技系の実習（対ヒトで行う医学系の実習など）では、やはり対面でないと技術の習得が難しかったり、対象との距離感を学ぶことができないという課題を抱えています。
- ・自習室の提供
- ・非常に TA が見つからないこと。
- ・多く大学院（修士）の学生ですら、修了の資格取得の場である。大学院定員を減らすべきではないか。
- ・座学でなく、コロナ下における実験に関する話も聞きたかったです。
- ・対面授業の実施
- ・研究志向の学生の減少
- ・オンライン期末試験がうまくやる仕組みが欲しいです。
- ・来年度以降の授業のあり方、教室など施設のキャパシティ
- ・単位取得状況が芳しくない（大学に馴染みにくい）学生にとっては、オンライン講義は学習再開のハードルを下げる効果があるようにも思いました。with/after コロナの時代において、教育目標、内容に応じて対面・オンラインという教育方式を組合せていくことも一案かとも思いました。オンライン教育のハードルが下がったことで、社会人博士の学生への指導の密度は圧倒的に改善できました。
- ・新型コロナでの生活劇変により、体調不良となり、休学を余儀なくされた学生のケア
- ・大学の運営資金獲得が深刻な問題になっていますが、大学教員の負担を増やしすぎることなく収益化できるものは講義動画、研究動画コンテンツしかない気がしています。動画コンテンツを一般に有料で公開して月額サブスクリプション契約などにより自動収益化することについて、検討したことはありますでしょうか？
- ・ICT のバックヤードはかなり心細いです
- ・思い切って、京大に Caltech で行われている様な Honor Code 制度を導入するのはどうか？オンライン試験などのハードルが減るし、学生の研究倫理教育にも良いのではと考える。京大での教育の 1 つのキーワードに当たる自主性とも一致すると思う。
- ・教授会なども効率化が重視されているような気がする。学生のため、教育の取組について深く議論できる機会が増えれば良いと思う。
- ・画一的に教員を縛ったり、管理を強めたりせず、各教員の自由裁量の余地も残したい。
- ・教育活動に労力を割くことが評価の対象になっているのかわからない。結局、論文発表と書くことで獲得した研究費の額で評価されるのなら、はっきりそう言われた方が良い。。
- ・後期の講義やゼミの開催の仕方、海外調査の取り組み方。
- ・一回生に対して対面講義あるいはハイブリッド講義をどのように増やしていくか。学部が担当する一回生講義が非常に少ないので、部局だけでは解決できないこと。
- ・10月、11月から講義・実習があるので、検討中。参考にしたい
- ・講義の透明化と教員評価、講義資料・動画の保存と継承方法

## 6. 今後このようなシンポジウムを開催する場合に取り上げるべきテーマについてのご提案

- ・自由の学風の内実を徹底討論する、というようなテーマはどうでしょうか
- ・教員の情報技術トレーニングが必要だと思います。
- ・新しい入試で入ってくる学生の特徴とあるべき教育
- ・研究・教育・学内業務（率直に言えば、このシンポへの出席そのものが学内業務負担）の間の適正なバランスや、学内業務負担の軽減について
- ・来年度は Blended 授業の評価が必要だと思います。
- ・学生のメンタルヘルスケア
- ・京都大学が排出すべき学部、修士、博士学生像
- ・課外活動も含めた幅広い学修成果をどう検証するのが課題となってくるように思いました。
- ・今回に似たテーマでもっと色々な人の話を伺いたいところです。
- ・学生の研究志向の向上
- ・大学の意義，新しい方向の大学(ミネルバ大学，慶應 SFC など)
- ・京大的なもの新しいテクノロジーの組み合わせ
- ・リカレント教企業との包括連携に組み込まれた企業人教育のあるべき姿と産学連携共同研究との有機的連関
- ・普段、准教授の立場では大学の財布事情（全体の規模、何にどのくらいお金がかかっているのかの配分比率）が理解できていないので、そういった情報が気になることがある。
- ・京大は、社会の期待や要請にどの程度敏感であるべきか。また、鈍感であるべきか。
- ・学生の進路との整合性や学生自身のカリキュラムデザイン
- ・最初の議題で「もっと博士を！」という目標があったが、教育システムの根本（例えば、大学院を優秀な人材しか進学できない経済的・キャリア的に魅力的な場所にする）を改革が求められていると思う。その様な、大きなテーマを大学全体のイベント（例えばシンポジウム）で問題提起することが大切だと思う。
- ・教育「方法」にとどまらず、それを下支えている「哲学」的な議論も活発になされるといいなと思う。「京大らしさ」とはなんなのか、「京大の価値」とは何なのか「もっともっと教員が意識していくべきだと思う。（地域、日本全体から、そうだ、だから京大だ！と肯定してもらえるように。）
- ・今年の続きで、オンラインを含めた京大ならではの教育とは何かを取り上げてほしい。
- ・今回もありましたが、世界の中にある京大という視点で、今後の方向性を模索するディスカッションを聞きたい。
- ・教育する側だけでなくされる側の意見・需要（アンケート以上に）がどうなっていてそれにどう応えるか（単なるサービスとしての教育ではなくて）、の議論
- ・京大が目指す教育原理、人材養成目的を明確化し、京大らしい教育システム
- ・今回もありましたが、世界の中にある京大という視点で、今後の方向性を模索するディスカッションを聞きたい。

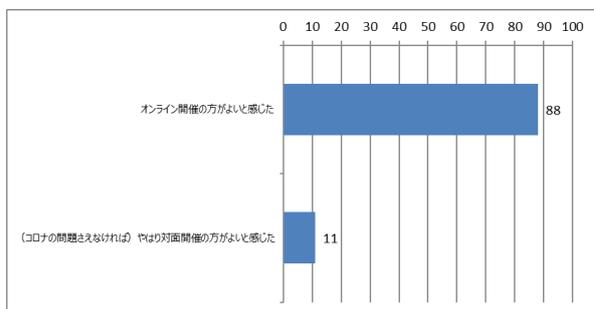
## 7. 比較的小規模なワークショップや勉強会で参加したいと思うテーマ（複数回答可）



□その他：

- ・学部での学位授与の基準、全教員の学部兼任化
- ・京大らしい教育とは
- ・京都大学が目指すべき教育のビジョンと社会の理解
- ・有機化学の講義カリキュラムはどの大学でも 20 年以上変化していないと思われるが、最新の融合研究でも競争できる視野の広い人材を育てられるよう、カリキュラムの改革（古くて重要度の低い内容を大胆に捨て、新しい基礎化学を導入する）が必要だと感じる。
- ・教学マネジメントの取組み

## 8. オンラインでの実施について



### □その他：

- ・初めての参加だったため比較対象がないのでどちらが良いと決めたいのですが、パネリストの方たちの反応を Zoom 越しにみていると、熱いお話を聞くことができ、方法問わず内容がよかったのではないかと思います。
- ・初めて参加したのでわからないが、オンラインで登壇者の先生方との距離が近く感じてよかった。
- ・初めて参加したが、オンラインで問題ないと感じた。
- ・本日の議論にもありましたが、「ハイブリッド」が大切ではないかと感じました。mentimeter の利用は、たくさんの「忌憚なき」意見を取り入れられていいと思いました。
- ・オンラインも悪くはないのですが、他の先生との出会いの場ににくいです。何か工夫できるといいのですが。REMO とか使えないですかね。
- ・対面は対面の良さがあるのでハイブリッド型がよい
- ・この規模だと、オンライン + 双方向性をさらに進めると、対面よりかえていいかもしれない。
- ・10 時から 17 時まで、Zoom 講義受講するのは、双方向性も乏しく、集中は続かないので、残念です。この FD 自身を反転学習形式とする等の取り組みで、オンライン試験の実践や執行部の先生方の討論ももっと聞きたかったです。1 日に 6 時間の Zoom 講義は学生も無理であることを我々教官も身をもって理解できた点は良かったのかも知れません。
- ・開催しないでほしい
- ・ハイブリッドで一般参加がしやすい形が良いのでは
- ・Zoom ウェビナーでは出席者に発言を許すことはできたと思います
- ・初めての参加なので、対面開催にも参加してみたい。
- ・オンライン、対面の両方。
- ・内容が良ければどちらでもいいです。
- ・初めての参加のためわかりません